

フォークからロックへと、世界は音楽隆盛の真ただ中。13歳の時ギターを買った。6千円だった。教わらず、楽譜も読まず、ひたすらレコードやテープから聴き取り音を探る。おかげで耳が鍛えられ、練習という感覚もなく好きな曲の弾き語りを満喫。以来、ずっと傍らにあり続けた。

時は経ち49歳の時だ。こ

の腕前にして安ギターを使い続けたのは偉い。もっと

いいギターを持っていて当然だ！などとうぬげれ一大決心。インストウルメンタル・クラブ・バンド「LITTLE TEMPO」のギタリストだったI君に話すと、なぜか僕が買うのを見たいからと言ってくれ、2人で東京の新大久保にある最大級の専門店、クロサワ楽器にでかけた。

「1日掛かりになりますよ」と彼から聞かされていたが、その通り。外国のものから日本製まで、音質、デザイン、抱き心地と確認しながら回り続ける。それにしても1本を選ぶのは難しい。こんがらがってしまい、最後には絵かきなんだから目で選ぼうと。結局は地味で飾り気のない、HIRO

ギターを買う

SHIMIZU HARA 作というギターに決めた。

ここからがおもしろい。この間、1人の若い男店員が付きっきりだったのだ。

苦手とするところだが、彼は営業の調子良さもなく、愛想笑いもせず、淡々と言葉少なに説明するくらいで少しも嫌みがなかった。

ようやく決まると、I君

が突然その店員に言った。「この人は絵かきさん、南青山の画廊で展覧会中。今これだけの予算だ」と。それは定価の3分の2の金額だったのだ。すると店員君いわく、ここがすごい。「いや、絵かきさんから代金をいただくのは…」。え



ったのだ。「持ってらっしゃる金額でお願いします。すみません」と。オイオイ何で謝るんだ！いやはや。その上、スペイン製ハードケースまで付けてくれた。店長は声を殺し「ええ？ ケースも！」と苦い顔。

ギター選びの疲れも忘れ、ずっしりと満足の入ったケースを掲げ店から出た。I君と2人、呆気にとられたまま顔を見合わせ、このおかしみにムムツとなぜいたのである。

翌日、何とその店員が僕の展覧会場に現れたのだ。しゃべくりもせず、じつくり見て帰って行った。おも

しろい！いいヤツだ！I君と彼のおかげで、実に気分がいいギターの買い方ができた。珍妙で愉快な思い出のおまけ付きで。

(吉田 淳治・画家)